



【12P】

ハロウィン寝取られ  
嫌われ者の先輩と彼女



はあ〜…

ハロウィン  
楽しみに  
してたのに…!!

いちやいちや  
したかったし…  
えっちだって…!!

ケントの奴…

彼女より

大事な予定

なんてないだろ…!!

ズ  
ズ  
ズ

せっかくアイツが  
好きそうなの  
用意して  
たのにさ〜…



もうそろそろ  
帰ってきてる  
かな…

…いや別に  
だから何って  
話だけと

9月31日

10月31日 日曜日

23:05

ガチャッ

トリックオア  
トリートツ!

彼女に  
寂しい思いを  
させる奴には

イタズラしちゃうぞ〜っ ♡

ビクッ

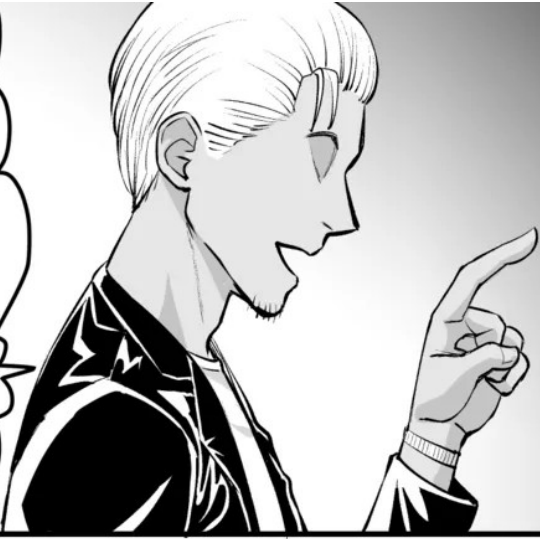
えっ!?  
先輩っ!?

お化け?



サークルの嫌われ者……！  
女癖最悪のヤリチンが  
なんでケントの家に……！？

あの……  
ケントはどこに？



ハハハ誰かと思ったら  
君アサミちゃんか！

ケントは今  
酒買いに行かせてるよ

うっ……

タイミング  
悪すぎ……

そっそうなん  
ですか！

じゃあ  
帰りますね〜

失礼しました〜



何言ってるの

わっ

すぐ戻ってくるよ

それに一回二人で  
話したかった……ん？

あれ？  
ノーブラ？

！

しかもこれ……

おいおいマジかよ

ちよっ

ド変態  
じゃねーかw

カアアアアア

いやっ……!

これは  
違って……!

だってこのままケントと  
えっちするつもりだったし……!



アアア

おん

うおっ  
下もトロトロ  
興奮しすぎだろ

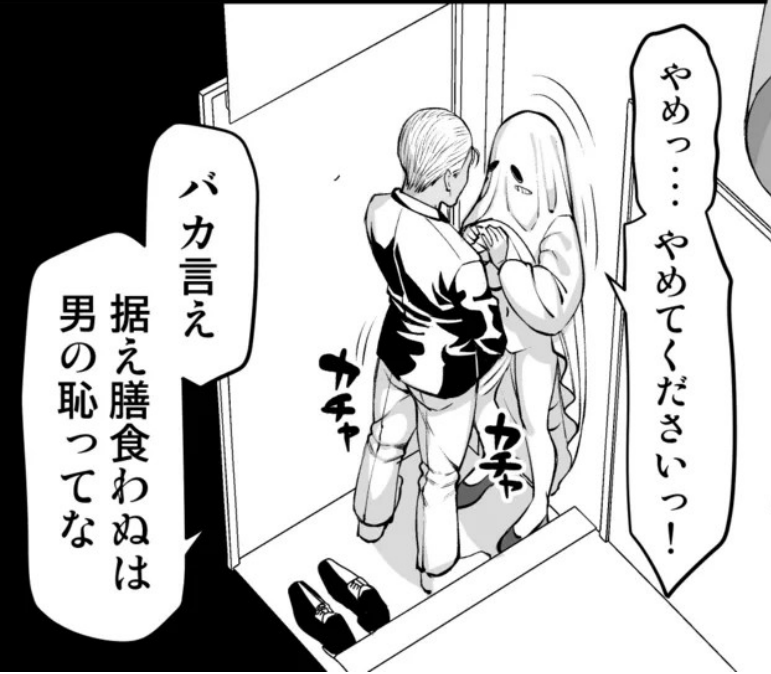


やめっ……やめてくださいっ!

バカ言え

据え膳食わぬは  
男の恥つてな

カチカチ



クソッ

おっ♥あつあつだな♥

ダメダメ

いやあ実際  
助かるわ

今日はナンパ  
全滅でさあ

どうっすか  
悩んでたんだよな

アッ

つか  
ダメだったの  
アイツのせいでし...

やる気なさすぎ

彼女に責任取って  
もらうってことで  
頼むわ♥

でっかつ...♥

クソッ

好き勝手  
言いやがってっ...♥  
このクズっ...♥  
最悪ッ...♥  
...なのにつ...♥

クソッ

そのつもりでいたから  
身体がつ...♥

ほっ





ぐわんぐわん

うおっ

ぐわんぐわん

おいおい  
いれただけで  
これかよ



お  
ぱぱぱぱ  
ジャケットが  
汚れちまったじゃねーか

どう責任  
とってくれんだ？

お

ガチャッ

戻りました〜

!!  
ケント!

え!?

…誰っ!?

ちよつと

先輩!

うちで何やって

るんですか!?

! 私のこと  
気づいてない…!

あ? いいだろ  
俺がどこで誰と  
セックスしてようが

何か文句  
あんのか?



いや…

だって…

流石に…

……

酒しまつて  
きますっ

へっ  
ビビってやんの

よかったな  
彼氏にバレなくて  
それとも  
それ脱いで  
サプライズでも  
するか?

俺はどつちでも  
いいけど?

…! このクズ野郎…!

他人の玄関で  
何してんだよ……



はー……最悪だ……  
今日は彼女と会うはず  
だったのに強引に  
ナンパに  
付き合わされるし……

……何より先輩が  
恐くて逆らえない  
自分が情けない……



おい



ベッド使うぞ



ホテルに  
行ってくれ……

……僕外に  
出てますね



何言ってるんだバカ  
お前がいないと  
苦情が来た時  
困るだろうが

……ごめん  
ケント……  
こんなことにな  
るなんて……





こっちはケントに  
バレないように  
必死なんだよっ…!!

お〜♡  
死ぬおもしろ〜♡

くそっ…  
デカいだけの駄チンがっ  
奥に押し付けてくるなっ



さっきはいれたただけで  
終わっちまったからな〜  
堪能させて  
もらうぞ♡

うっ引き抜かれる  
だけでヤバイっ…!!

ガン突きすんなう♡  
声ガマンできないだろっ♡





ケント

コイツさ暑くて  
コレ脱ぎたいみたい  
だからさ

やっぱお前出てけ



俺らまだまだ  
やり足りねーからさ

連絡するまで  
戻ってくるんよ



わかりました...

声...身体...  
特徴的な二つのホクロ...  
わざと先輩は僕に  
それを見せたんだ...

つまり...  
いや...でも...

あの子は彼女なのか...  
頭で思っていることを  
心が否定し続けていた...  
今...中に入れば...  
簡単にはわかることだ  
なのだ...

あの子の顔を見る勇氣も...  
先輩に逆らう度胸も  
僕にはない...



僕はただ家の前で  
二人のセックスが  
終わるのを待ち続けた